

生態学研究センター

I	研究水準	研究 33-2
II	質の向上度	研究 33-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均査読付き論文数はデータが示されておらず不明であるが、平成 16 年度から平成 19 年度の 4 年間にセンター全教員（14 名）で 165 件（重複を含む）であることから、教員一名当たり平均で年 2.9 件となっている。研究資金の獲得状況においては、平成 16 年度から平成 19 年度の 4 年間でセンター教員が代表者となって科学研究費補助金 14 件を獲得しており、さらに戦略的創造研究推進事業 CREST の 2 件を含めて 19 件の外部資金を獲得していることなどは、相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、生物多様性に関する国際プログラム（太平洋アジア地域）の活動として、平成 19 年度に国際野外生物学実習 9 件、国際会議・セミナー 4 件を実施しているほか、野外施設・琵琶湖観測船の共同利用として、平成 19 年度にセンター外から 50 名の利用実績がある。また、共同研究成果として平成 19 年度に 20 件の査読付き国際誌原著論文があることなどは、相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、生態学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生態学研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生物間相互作用の研究で優れた成果を上げているほか、熱帯生態学の研究でも相応の成果を収めている。また、共同利用研究において、安定同位体を利用した生理・生態学的研究で優れた成果を上げている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、生態学研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生態学研究センターが想定している関係者の「期待される水準に

ある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。